

チャレンジ レポート

このコーナーは、長寿・子育て・障害者基金による助成事業のうち、高齢者や障害者の在宅福祉、子育ておよび障害者スポーツ振興などの参考となるものをご紹介します。

化粧療法による高齢者支援事業

美容セラピー推進会（鹿児島県鹿児島市）

美容セラピー推進会では、化粧療法を「化粧（美容）施術を介した心への働きかけ」と考えています。

化粧などで外見の変化付けを行いながら、スキンシップや会話などのコミュニケーションを介して、高齢者の心に働きかける取組みを行っています。



美容セラピー推進会
代表
原口 裕未さん

DATA

美容セラピー推進会

〒891-0141

鹿児島県鹿児島市谷山中央7-4 氣粧院内

TEL. 080-3955-9292

<http://bi-sui.jugem.jp/>

化粧療法の活動で気づいた 心のケアの大切さ

美容セラピー推進会代表の原口裕未さんは、平成11年から皮膚科の先生と連携して、傷・あざのカモフラージュをする「メディカルメイク」を始めました。始めてみると、心のケアが重要だということに気づき、活動のもう一つの柱にメンタル部分を重視した「セラピーメイク」を掲げるようになりました。

原口さんが提唱する化粧療法とは、単に化粧で綺麗になって喜んでもらうことが目的ではなく、施術や会話といったコミュニケーションや、BGM、施術に携わるスタッフ自身の服装など、相手の五感に影響すると思われることのすべてに工夫を凝らして、心に動きを与えようというもので、対象も、年齢や性別を問

ません。

2つの活動を進

めるとなると、対

象層が広がります。

また、新聞記事

を読んだ方から

「取り組んでみたい」という声も寄せられるようになり

ました。

そこで、ボラン

ティア団体をつく

って、高齢者・障

害者・子育て中のお母さんなど、幅広い層に向けて活

動を展開しようということになり、美容セラピー推進



施術だけでなくコミュニケーションも大事にしています。

会を起ち上げました。会員数は36名程度で、実際にメイクセラピー（化粧療法）の施術ができるのは15名ほどですが、仕事や家庭をもつ女性が多く、時間をやりくりしての活動となっています。

メイクセラピーの啓発・ 人材育成・現場活動を推進

活動を展開していくうちに、①メイクセラピーを広く知っていただく機会をつくりたい、②メイクセラピーに取り組める人材を育成したい、③育成した人材に現場活動をやってほしい、という3つの思いが強くなりました。しかし、それを短期間で実現するには多額の資金が必要で、資金の持ち合わせがないために実行に移せませんでした。

そこで、鹿児島県社会福祉協議会の担当者からのアドバイスにより、活動実績もほとんどない中、不安な気持ちで助成の申請書類を提出しました。

無事に申請が通り、平成18年度には、独立行政法人福祉医療機構（WAM）の高齢者・障害者福祉基金「地方分」の助成を受けて、「化粧療法による高齢者支援事業」を行いました。

「仕事や家庭をもちながら活動するメンバーばかりなので、申請書類を作成する時間をとるのも大変で、何度もうけそうになりました。でも、200万円という助成額は正直とても魅力的でした。うちが使う化粧品は低刺激性のもので、一度開封したら使っていなくても捨てなければならぬですし、道具をそろえるのにも莫大な費用がかかります。助成を受けられたのは本当にありがたかったです」と、原口さんは振り返ります。

まずは「メイクセラピーに関する講演会」を開催しました。メディアで取り上げられたこともあり、九州内外から予想を超える反響がありました。

次に「メイクセラピスト育成講座」を10か月にわたって開講しました。申し込みのあった36名のうち、書類選考と簡単な電話試験で「適性あり」と判断された20名が受講しました。養成講座には、現場実習も組み込まれ、実践的なものとなりました。

「思った以上の反響があり、頑張ってきてよかったと思いました。当初は私以外に講師をできる者がいなかったのです。講演の講師も育成講座の講師も自分でやらなければならず、そこに時間を割くため、自分の仕事の収入がものすごく抑えられる結果とな

ったのが大変でした」と、助成事業のご苦労を語る原口さん。

実際に高齢者施設に向いてメイクセラピーを行うと、高齢者の様子に変化がみられ、満面の笑顔で「生きてきてよかった」等と喜ばれたり、「ありがとう」と言ってもらうと、心に働きかける素晴らしさを実感するのだそうです。

構想は無限にふくらんで

平成19年度以降も、高齢者の施設を訪問してセラピーメイクをするなど、可能な範囲での活動を展開しています。

「プロ意識をもった有償ボランティアとして活動したいのですが、地域性もあつてか無償のメイクボランティアさんが選ばれる傾向があります。資金繰りがきびしいので、細々と続けるのが精一杯です。人材や資金が潤沢なら、やりたいことはたくさんあるんですよ」と、原口さんは言います。



口紅をひいて、もっとステキになりました。

そのひとつは、子どもを保育園に通わせているお母さんたちに化粧を教えることです。女性としての気持ちを取り戻してもらう中で、間接的に生きがいを感じてもらう、それが子育て

にもいい影響を及ぼす、という形での子育て支援を開始し、継続したいそうです。

また、「メイクセラピーを通信教育化できたら全国に広がるのでは」とか、「他の癒しの専門家たちとのネットワークができたらもっと充実した活動が提供できるのでは」と、原口さんの構想は無限にふくらみます。

構想の実現に向けて、美容セラピー推進会はゆるやかに歩み続けます。

美容セラピー推進会による「化粧療法による高齢者支援事業」は、平成18年度に高齢者・障害者福祉基金の「地方分」助成事業テーマ③「高齢者・障害者の社会参加の促進に関すること」の事業として、助成を行ったものです。

独立行政法人福祉医療機構評価

単なるメイクセラピーの技術の修得のみならず、高齢者への接し方、心理、傾聴の重要性なども重視した研修内容となっています。受講者による施設実習においても、高齢者に精神的・身体的変化が現れたり、実質的な効果は予想以上でした。また、受講者自身も自己覚知や自己啓発につながるプログラムとなっており、単なる技術講座に終始していません。

また、メイクセラピーに関する知識についての講演も行い、併せて関心を持った聴講者を「メイクセラピスト育成講座」に結びつけるきっかけとしています。単に技術面だけでなく、メイクセラピーの持つべき理念をも伝えようとしています。

チャレンジ レポート

このコーナーは、長寿・子育て・障害者基金による助成事業のうち、高齢者や障害者の在宅福祉、子育ておよび障害者スポーツ振興などの参考となるものをご紹介します。

みんなで作る

「山科だいきぎガイド」事業

特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろば（京都府京都市）

特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろばでは、「子どもには、この地域ってステキ！と思ってもらえるように。そして、山科のことがなんでもわかる便利ブック！子育てをしている人には、もう一人この地域で産み育てたいと思えるように」という構想でガイドブックを作成しました。



特定非営利活動法人
山科醍醐こどもの
ひろば 理事長
朱 まり子さん

DATA

特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろば

〒607-8088

京都府京都市山科区竹鼻地蔵寺南町2-1

TEL&FAX. 075-591-0877

<http://www.kodohiro.com/>

「町たんけん」で山科に愛着を

特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろばの前身は「おやお劇場」です。平成12年3月に特定非営利活動法人の認証をとりました。

理事長の朱まりさんは、「私は山科で生まれ育ち、現在に至っています。山科には実は2万年前から人が住んでおり、天智天皇陵もあれば、日本の「寺内町」で、栄えた時代もある。ところが、あまりにも有名な京都に隣接しているためか、京都の付属という感覚があり、地域に愛着を持ってない人が多いことを残念に思ってきました。まちを知ること、興味を湧いて、興味が湧くことで愛着をもってほしい。大きくなってここから離れたとしても、自分

の故郷はいい所
だと思えたら、
心のよりどころ
になるのでは、
と思います。
平成14
年から「町たん
けん」を始めま
した」と、「町
たんけん」を始
めた経緯を教え
てくれました。

平成14年に
は、41人の子どもたちと「町たんけん」をして、それに付随する形でガイドブックを800部作成しました。平成16年には、知らせることを目的に3千部のガ



勧修寺の紅葉は絶景です。

山科のことがなんでも わかる便利ブックを！

イドブックを作成しました。次の年は、子どもたちと体験を積み重ねた結果を卒業文集のように名前付きで残そうという意図でガイドブックを作成しました。

「もつとしつかりと伝わるようなことができないか、もうちょつと広範囲で、子どもだけではない子どもを育てる町、親御さん、いろいろなことを発信できるものを作りたい。家の中にそういう本がころがっている状態を作りたい」という思いから、福祉医療機構の助成に応募することにして、平成18年度には、独立行政法人福祉医療機構（WAM）の子育て支援基金「地方分」の助成を受けて、「みんな

で創る「山科だいきガイド」事業」を実施しました。助成で作成した「だいき！山科ガイドブック2007」には、山科の豊かな自然、伝統産業、史跡が、子ども目線でまとめられています。これらは、子どもたちが「町たんけん」の経験から感じ取ったものばかりです。

清水焼団地を見学したときは、手びねりでの茶碗づくりに挑戦しました。近所の川を散策したときは、日本野鳥の会で活動されているおじちゃんに、いろいろな鳥について教えていただきました。

「町たんけん」で子どもたちの興味・関心に応えるためには専門的な知識が必要で、訪問先や郷土史家、埋蔵文化財の研究者、自然教室の先生等の地域の人々の協力が大きな力となりました。

「いろいろな人の力を借りて実施しました。「子どもは地域の宝」と思ってください。丁寧に説明していただきました。地域の一人ひとりの強いメッセージが子どもたちの生きる力になっていくのだと思います」と朱さんは教えてくれました。

ガイドブックには、子育てサークルや困ったときの相談先、普段出会わないようなアレルギーネットワークなど、親御さんにとって便利な情報も豊富に載っています。お母さんたちへのアンケート結果をまとめた部分は、読んだお母さんがホッとしたり共感できるページとなりました。また、「自分を大切に」というところでは、心がしんどいときは休む権利があることを伝え、「読んだ子どもがいつの間にか基本的な信頼感をもてるように」という意図で編集されています。

助成事業のおかげで 目に見えない財産が増えた

「福祉医療機構さんから助成をいただけたのは大きかったですね。助成をいただけたからこそ、計画どおりに遂行しようと頑張れたし、周囲からの信頼度も格段に上がりました。山科区内の全部の小学校が快く全員に配布してくださったのも、助成あればこそです。助成のおかげで子どもたちの参加費も親御さんが負担しやすい額に設定できました。それで子どもたちも大勢参加してくれたのだと思います。人とのつながりも沢山もって、目に見えない財産をいっぱいいただいた事業でした」と、朱さんは助成



自分だけの茶碗づくりは真剣そのもの。

事業のすばらしさを話してくれました。

事業のなかで撮りためた写真を見せていただいたところ、子どもたちの瞳は好奇心で輝いていました。多くの子どもや大人が力を合わせて紡いだこの事業は、山科という郷土を愛する心を育てるとともに、生きていくための糧になっていくことでしょう。

特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろばによる「みんなで創る「山科だいきガイド」事業」は、平成18年度に子育て支援基金の「地方分」助成事業テーマ①「地域や家庭における子育て支援事業に関すること」の事業として、助成を行ったものです。

独立行政法人福祉医療機構評価

主に子どもに向けた山科地域のガイドブックを作成しました。小学生から中学生もスタッフとなり、子どもたちの意思を尊重して彼らの体験を基に記事を作っていく、大人向けにも保育所や小児科情報、子育ての悩みの解決の糸口などを載せています。アンケートを含めると、300人以上が参加しました。

完成したガイドブックを区内の全小学生に配ることができただけでなく、製作過程で異年齢の子ども同士で交流ができ、また小学校とも友好的な関係を築けるようになってきている点がポイントです。

また、当法人でこのようなガイドブックを作るのは3回目とのことですが、数年おきに更新版を作成することを希望します。

チャレンジ レポート

このコーナーは、長寿・子育て・障害者基金による助成事業のうち、高齢者や障害者の在宅福祉、子育ておよび障害者スポーツ振興などの参考となるものをご紹介します。

ふれあい囲碁を活用した 地域づくり推進事業

特定非営利活動法人ふれあい囲碁ネットワーク大分（大分県大分市）

特定非営利活動法人ふれあい囲碁ネットワーク大分では、「ふれあい囲碁」という、幼児から高齢者まで対象を選ばずに楽しめる石取りゲームを、コミュニケーション・プログラムとして活用し、地域が元気になるための取組みをしています。



特定非営利活動法人
ふれあい囲碁ネット
ワーク大分 理事長
谷川 真奈美さん

ふれあい囲碁はコミュニケーション・プログラム

「ふれあい囲碁」は、囲碁の基本ルールを1つだけ使った簡単な石取りゲームを用い、表現方法や問の取り方、進行方法などを工夫したコミュニケーション・プログラムです。全国各地の実践団体が、特色ある活動を展開しています。特徴は、その場に集まったすべての人が同時に参加でき、居心地のよい距離感を生み出すように工夫されていることで、3歳の幼児も認知症の高齢者も障がいのある方も、だれでも楽しむことができます（46頁参照）。

大分県内では、平成11年から囲碁のプロ棋士やアマチュア愛好家を中心となって、保育や教育の現場に「囲碁遊び」を導入するためのボランティア活動を

開始しました。その後「ふれあい囲碁」というコミュニケーション・プログラムを活用した人間関係作り」を目標として、平成14年8月、特定非営利活動法人ふれあい囲碁ネットワーク大分を設立しました。現在は、老若男女をとわず、多彩な顔ぶれの会員が22名いて、「人と人、心と心をつなぐ」ことに喜びを感じながら、それぞれのペースで活動に参加しています。

助成事業で活動の幅が 大きく広がる

平成18年度には、独立行政法人福祉医療機構（WAM）の子育て支援基金「地方分」の助成を受けて、「ふれあい囲碁を活用した地域づくり推進事



団体戦も個人戦も楽しそうです。

業」を行いました。

6月には、保健師、自治会長、民生児童委員、行政、ボランティアなどの地域のリーダーを対象に「人のつながりってなあに？」というテーマで研修会を行いました。人と人との絆が断たれ、生きづらくなっ

DATA

特定非営利活動法人
ふれあい囲碁ネットワーク大分

〒870-0874

大分県大分市にじが丘3-10-10

TEL&FAX. 097-594-7788

<http://www.fureaiigo-net.com/oita/>

ていることや、コミュニケーションがとりにくくなっている現状を意識してもらおう内容で、「ふれあい囲碁」が人と人をつなげる視点で開発されたプログラムであることを体験してもらいました。

9月には、研修会に参加した人のほか、広く地域住民に声をかけ、午前中に大規模な交流会を行い、午後には、①地域づくりの方向性、②人とかかわる力、③ふれあい囲碁の実践方法という3つの分科会を開催しました。

午前中の交流会では、最初に団体戦を行いました。1つのチームは10名ぐらいで、高齢者・障がい者・外国人・幼児等が混在する「ミニ地域」になっています。団体戦では、チームの協力的体制が自然にできてきます。その後は、個人戦として1対1でゲームし、ゆつくりと世間話を楽しみながら進めました。

勝負することが目的ではないので、進行役のリーダーは黒子に徹しつつ「ゲームは顔見知りをつくるための道具であって、ここでゲームされたことがすごいことなんですよ」というのを伝えていきます。

「助成事業を通じて、地域の人たちから絶大な信用がある民生児童委員さんやヘルスボランティアさんが仲間に加わってくれました。この2人が「みんな簡単に見える」ことを伝えてくれたことで、私たちの活動の幅は飛躍的に広がりました。これが一番の効果です。また、課題も見えてきました。私たちが囲碁リーダーをやっていくうえで心の構えや障がいに関する知識など、専門的なことを勉強しなければ、ということに気づきました」と、理事長の谷川真奈美さんは助成事業の効果について、おだやか

に教えてくれました。

ふれあい囲碁で 人づくり・地域づくり

平成19年度は、大分県社会福祉協議会の福祉専門分野の補助事業があったので、助成を受けて専門的な研修会を7回①ふれあい囲碁の体験と進行練習、②（高齢者）福祉分野での取り組み、③高齢者と子どもの世代間交流、④発達障がい児（者）への取り組み、⑤ふれあい囲碁交流会とリーダー育成のための進行練習、⑥コーチングを学ぶ、⑦居住地域での実践ノウハウ）開催しました。

「認知症の方は無理だと思っていらいっしやる方が多いのですが、私たちは4年ぐらい認知症の方の施設に通っているので、ちゃんとコミュニケーションがとれることは実証済みです。ただ時間の流れがゆっくりしているだけなので、それさえわかればコミュニケーションできることを実際に見ていただく」と、みなさん驚かれます」と、谷川さんは教えてくれました。



午後の分科会も盛況でした。

また、保育・教育現場中心の活動だったものが、地

域ふれあいサロン等からの活動依頼が増え、さらに地域に根ざした活動になってきました。

平成20年度は、大分市との協働「あなたが支える市民活動支援事業」として、ふれあい囲碁の交流会を実施しており、今後も、ふれあい囲碁によって地域づくりに貢献していくのだそうです。

ふれあい囲碁ネットワーク大分の取り組みは、これから地道に裾野を広げていくことでしよう。

特定非営利活動法人ふれあい囲碁ネットワーク大分による「ふれあい囲碁を活用した地域づくり推進事業」は、平成18年度に子育て支援基金の「地方分」助成事業テーマ①「地域や家庭における子育て支援事業に関すること」の事業として、助成を行ったものです。

独立行政法人福祉医療機構評価

簡単な囲碁ゲームを通して、まさに老若男女、障害の有無、国籍を問わず、地域を巻き込んだ交流事業が実現できています。準備段階より、行政、学校、自治会、民生委員などとともに検討・研修を進めています。

県総合福祉会館で実施されたふれあい囲碁交流会・分科会では、あらゆる年齢層、障害のある方など250人が競技を楽しみ、分科会においては、競技によってアイスブレイキングできた雰囲気のまま地域づくりなどを考えることができました。多くのメディアにもとりあげられたユニークな事業でした。今後の展開も楽しみです。